

4-6.15.12)

7-12 5.88

5.1.6.1.5-30 3/2



# 極秘

## 次官

奉天情報第三一號

昭和貳年五月十一日

情報課長 殿

奉天公所長 鎌田 彌助

土

寫送付先 大藏理事 支社長 廣務部長 哈事長 各公所長 奉天

銀券 關東 長春 地方事務所長

楊宇霆氏、時局談 (五月十日)

目次

- (一) 楊氏晉京期、張總司令、前線巡視
- (二) 馮軍、動靜、關錫山、態度
- (三) 蔣介石、南北妥協
- (四) 勞農、外蒙策動
- (五) 京兆衛戍總司令、更迭



161530

0091

(一) 楊氏晉京期、張總司令ノ前線巡視。

自分ハ最初二週間位ノ豫定ヲ歸奉シ昨日モ早ク歸京スル

様督促ノ電話モ有リ居ルカ、未ル十四日南門外風雨台ニ新

築セシ關帝廟ヲ築具。終ハアカラ十五六日頃晉京スル豫定

テアル。

張總司令ハ自分ノ歸京ヲ俟テ前線巡視ニ赴ク筈テアルカ張

軍長(學良)ハ最近鄭州蚌埠徐州ノ各地ヲ巡視シテ本日歸京シ

タ模様テアルカラ或ハ總司令ハ巡視ハ中止サレルカモ知レ

ナ  
イ

(一) 馮軍ノ動靜ト閻錫山ノ態度

最近馮玉祥軍々陝西カラ南ツテ行動ヲ開始シタト

云フ情報カアツタカ恐ラ？事實アラウト思ハレル然シ南

口ノ戦闘後綏遠方面ハ安固軍ノ勢力範圍トナツテ勞農側カ

ラノ彈藥補給カ不可能ヲマルカラ馮軍ノ策動ハ些カモ脅威

ヲ感シナイ

閻錫山ノ態度ニ就テハ種々揣摩臆測ヲナスモノカアルカニ

161530

0093

三月以前ニハ事實其態度リ極メテ不鮮明ヲアツタ末間  
旨解ハ國民黨系ヲアルカヲ蔣介石一派ノ三民主義ニハ反對  
シテイノハ自明ノ理ヲアツテ從テ蔣蔣間ニハ一脈ノ連繫ノ  
ミツク事ハ疑ハ容シカナイノテアル處カ最近漸ク南方政府内  
ニ赤化共產ノ色彩ヲ濃厚トナツテ來クノヲ蔣智辨モ考慮ス  
ル所カアリ現今ノハ却ツテ安國軍ニ好意ヲ寄セ相互ノ間ニ  
充分諒解スルニ至ツタ

(三) 蔣介石ト南北妥協。



161530

0094



日本人ヲ蔣以石ヲ目シテ國民黨ノ右傾派ナルト確信  
ツアル向ミ少クナイカ之ハ全ク觀察ノ誤謬ヲアツテ南方  
側ニ然タル右傾派ト目スルハ張繼一人ヲ彼ノ日本亡命  
モ主義上相容レヌカラ上海ニ居ラレナクナツタノアアル  
南方政府カマダ廣東ニアツタ時代カラ「ボロダント」<sup>ガロン</sup>「カール」將軍  
其他多數ノ勞農將校ハ蔣以石ニ附隨シテ居ツタノテアルカ  
其等ハ今テコソ武昌南京ト相對峙ノ姿テアルケレトモ天未  
ハ同一使命ノ下ニ行動シテ居ルノテ何も「ボロダント」<sup>ガロン</sup>「カール」

將軍トノ間ニ意見ノ相違カアル譯テモナク唯最近蔣介石ノ  
方カカ陸マタルヲ以テホシテヤ徐謙一派ノ嫉視スル所ト  
ナリ陸慶ニ壓迫ヲ受ケルヲ蔣介石トシテモ個人的ニ本口  
デトニ對シ含ム所アリトモ此ヲ決シテ主義主張ヲ二様ニスル  
モノアリ

南京ニ於ケル日本人ニ對スル暴行ノ如キモ全クボロゲビカ  
蔣ヲ窮地ニ陥レル爲メノ策略デアアル、各國カ蔣介石相手ニ南  
京事件ノ抗議ヲ持込シタ所ヲ蔣ハ武漢政府ノヤツリ事デア

リ自分ハ軍人ナキ外交問題ニハ全然関與シナイト責任ヲ陳友  
仁ニ轉嫁シテ其ノ失カラ見テ其ノ間ノ消息ヲ窺ハレル。

斯ル事情ノ下ニ而モ安寧ナクハ到底實現スルモノナク最

近南方派カ赤化ノ手ヲ弛メ盛ニシテ民主義ヲ提唱スル所以

モモハ余リ急激ニ赤化ヲ行フ時ハ却テ安國軍ノ努力ヲ増

大スル虞レカノルカラ急カニ態度ヲ變更シタノチアレ。

#### (四) 勞農ノ外蒙策動

勞農露國ハ最近辺境ニ策動シテ居ルトノ情報カ頻々トシ



161530

0097



テ未ルカ奉天割ヲハ之ニ對シテ別ニ對策モ構ヒテ居ナリ。

彼等ハ吉黒両省ノ馬賊ヲ糾合シ擾亂ヲ策シテ居ルラシイカ

此等馬賊。元来、銀城地ニ居ツテコソ敏活ナル活動カ出来

ルノデアアルカ如シ不案内ノ土地ニ出テハ何等用ヲ爲サナ

イノデアアル。彼等馬賊ハ彼等ノ生命トスル武器ヲ勞農側ニ依

ツテ得ントスルノカ真意ヲアツテ勞農側ノ為メニ働クト云

フ様ノ觀念ハ毫末モアル筈ナリ。假シアツタニシテモ騎兵

數團ノ準備カアレハ容易ニ撃退シ得ル。



161530

0098



(三) 京兆衛戍總司令ノ更迭

京兆衛戍總司令兼第十師長于珍ハ河南ノ戰闘ヲ不覺ヲ取

ツタ關係カラ多少批難ヲ起リ又他ニ種種々復雜ナ事情カラツ

タノテ本兼職ニ罷免セラレ目下安國軍總參謀トシテ樞機ニ

參畫シテ居ル而レテ舊部下ハ悉ク王樹常ノ節制ニ歸スルコ

トトナツタ王于函氏トモ日本留學生テアツテ殊ニ王氏ハ陸

軍大學校ノ卒業生テアルカラ最も適才テアル。

榮臻軍長ハ元來李景林ノ部下テアツタカ河南攻略ニ於ケル



彼ノ勲功ヲ賞スル意味ヲ衛戍総司令ヲ兼任セシムルニトシ  
ナツタノテアル以上ノ更迭ハ賞罰ヲ明カニスル爲メニ行ハ  
レタノテアル云々

社外発表謝絶

3.



161530

0100

彼ノ勲功ヲ賞スル意味ヲ衛戍總司令ヲ兼任セシムルコトト  
ナツタノテアル以上ノ更迭ハ賞罰ヲ明カニスル爲メニ行ハ  
レタノテアル云云。

社外発表謝絶

了。



161530

0100

大臣

次官

秘書

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人事

文書

會計

先送

(分類 6.15.1-2)

電信課

六八九四 晴

北京 本省

五月十六日後着

至

田中外務大臣

第五五號

東京電報第九號

近時支那政客力大進ヲ策源地トシテ種々政治的畫策ヲ圖ラシツツ  
アリトノ風説類リニ傳ヘラルル折柄最近同地ニ於テ楊宇霆ト蔣介  
石代表(黃郛トモ謂ヒ又ハ其代表トモ謂フ)トノ間ニ南北妥協ノ  
商議行ハレツツアリトノ情報アル處時節柄右ニ付御聞込ミノ次第  
モアラハ折返シ御同電ヲ請フ  
大臣、奉天へ轉電セリ

芳澤公使

(赤 押 紙)

A. 6.15.1.2

612.00511

奉  
天  
支  
店

奉  
天  
支  
店

奉  
天  
支  
店

奉  
天  
支  
店

機密第四二五號

昭和二年五月十六日

昭和二年五月十六日

在上海

總領事 矢 田 七 太

外務大臣男爵 田中義一殿

江南時局ニ關スル馬伯援ノ談話報告ノ件

森岡領事ヨリ左ノ通り

去ル十四日蔣介石擁護論者馬伯援ノ本官ニ語レル所ニ據レハ南京事件ハ  
大軍黨代表林祖涵カ第二軍黨代表李福春ト通關シ（程潛ハ「ボロヂン」ノ  
轉旋ニヨリ第六軍長ノ職ヲ氣チ得タル關係上其軍隊ハ全線其黨黨員ニヨリ  
左右セラル）計劃的ニ排外ヲ目的トシテ實行シタルモノナルヲ知ル



土



ニ於テモ其共產黨ハ南京事件ト前後シテ勞働者ヲ煽動シ一面青紅兩派ヲセ  
買收シテ直接行動ニヨリ租界奪回外國人驅逐ヲ計劃シ同時ニ之ヲ機トシテ  
蔣介石ヲ失脚セシメント企テタル處蔣介石ハ驚愕ニ於テ南京ノ變亂ト共ニ  
上海騷擾ノ計劃ヲモ聞込ミ事體重大ナリトナシ即時下航途中南京立寄ヲ一  
時間ニ切り詰メ上海ニ急行シテ故先輩陳其美ト青紅兩派トノ關係ヲ利用シ  
共產黨計劃ノ裡ヲ播ヒテ遂ニ青紅兩派ヲ自己ノ手ニ買收シ次テ共產黨ニ壓  
迫ヲ加ヘ更ニ今回程潛ノ軍隊ヲ武裝解除スルニ至レルセノナリ蔣介石ハ約  
二十五萬ノ兵力ヲ擁シ武漢派ノ兵力十萬ニ對シテ一見優勢ナルカ如キモ内  
部ニ武漢派ト氣脈ヲ通スルモノモ少カラス特ニ差當リ孫傳芳討伐ノ必要モ  
アリ戰爭ニヨリテ此際武漢派ト雄雄ヲ決セントスル自信ナキヲ以テ目下上  
海ニ在ル青紅兩派ヲ利用シテ共進會ヲ組織セシメ多數刺客ヲ武漢ニ送りテ



「ボロチン」徐謙鄧演達等共產派ノ幹部ヲ暗殺セシメント金ヲ管内各軍黨ニ通達シテ黃浦軍官學校卒業生ハ身許性行經歷等最モ確實信用スヘキモノニ非サル限り軍官ニ任用ヲ禁止シ上海經由共產黨員ノ運輸捕ヲ實行シ並ニ武漢ニアル俄仕込ノ青年共產黨員ヲ極力籠索シテ三民主義ニ改宗セシメントスル等專ラ政略的ニ武漢派ノ勢力ヲ削クニ努メ一方武漢派ニ於テモ奉天軍南下門牆ニ迫ラントスル今日武力ヲ用ヒ蔣介石ヲ討伐スルカ如キハ不可能ナルヲ以テ多數赤化運動員ヲ上海南京方面ニ送り煽動宣傳等ノ手段ニヨリ南京派内部ノ擾亂ニ全力ヲ傾倒シ居レリ右ノ事情ニヨリ長江以南ノ政局ハ當分安定ノ見込ナキ處此儘ニ推移セハ武漢側ノ惡辣深刻ナル煽動手段ニヨリ事態益險惡ヲ加フヘキヲ以テ自等ハ蔣介石張玉祥楊宇霆（張作霖張宗昌等ハ問題トナラス）ノ三人ヲ提携セシメテ打テ一丸トナシ此一大敵

東京昌平ハ開闢イナスノ三人ヲ對峙セシメテ降ヲ一決イナシト決一大機  
ニモリ津邊益劍意ヲ佩テヘテモ自<sup>○</sup>安<sup>○</sup>善<sup>○</sup>ハ蘇合石王執御宇意（遊狩  
備ハ當役支度ノ具及テテ鎮撫ニ謀者々ハ實業勤ク惡業棄テテ勤儉手爲  
ニモリ南京城内胎ノ靈山ニ全代ヲ對峙セリテ沐ノ降附ニモリ処正以附ノ  
鎮撫テ小モ以テ津邊外數處身ヲ止新南京内面ニ遊リ賊匪宣稱等ノ手廻ニ  
軍兩門陣ニ臨ミ今日爲式ヲ用フ蘇合石王執御宇小モ以テ取テハ不  
イヌ小善事ヲ遊部田ニ爲斯道ノ便氏ヲ附クニ要ク一氏爲斯道ニ爲テ子奉天  
左第ニモリ州村ノ中井龜藏員ヲ蘇合石王執御宇ニ知事ナシトシ  
ニ非ヤ小賊リ軍官ニ出ルヲ禁止シ上城縣由井龜藏員ノ監禁解テ實計ニ盡ニ  
ニ嚴禁シテ清部軍官等對令業主ハ長布封行難難等學子願實附臥スハ十等ノ  
「水口モル」一約難收難難等井龜藏ノ降附ヲシメテ小善事管内等事

力ヲ利用シテ武漢派ヲ撲滅セシメタキ希望ヲ有ス蔣介石ノ爲人並ニ共產黨  
取締ニ對スル彼ノ眞意ニ關シ世間種々ノ批評ヲ聞クモ自分ハ蔣ニ對シ極メ  
テ善意ノ觀察ヲ有シ從テ彼カ今尙南京日本館ニ軍隊ヲ駐屯セシメ或ハ南京  
市中ニ多數排外ボスターノ貼附ヲ默許セリトノ聞込ニ就テハ事彼ノ國際的  
信用ニ關スルヲ以テ不日南京ニ赴キ蔣ニ苦言ヲ呈シタキ考ナリ昨今武漢地  
方ハ極端ニ左傾シ楊玉祥ノ代表トシテ武昌ニ駐在シ居リタル李鳴鐘、李紀  
才ノ兩人ハ今同身ニ危險ノ迫ルヲ恐レテ南京ニ逃レ來リ又唐生智ハ蔣介  
石ニ對シ私的怨恨ヲ生シ（唐カ排斥シタル賀耀組ヲ蔣カ重用シテ軍長ニ任  
命セルニ始ル）タル結果反蔣派ノ鄧演達ニ煽テラレ湖南ノ赤化運動ヲ助長  
スルカ如キ態度ヲ採リツツアルコトハ（湖南人ハ精悍偏狹ニシテ思想中庸  
ヲ失シ易ク俗ニ驢子ト稱セラル近時學生ハ大數共產主義ニ被レ農工勞人

ヲ煽動シ純赤化狀態ナリ一容易ナラサル現象ニシテ斯カル暴風潮即時防止  
ノ爲ニモ此際是非共早ニ及ンテ蒋介石ヲ盛リ立ツル必要アリ云々

專本信 寫送付先 北京

在上海日本總領事館



7

三師

第七二

昭和二年五月十八日

許議員 水村銳市 啓



啓

漢口江漢商報中學校總務長齋藤保氏ヨリ別紙ノ通り同地最近ノ状況ニ就テ概古有之候間供實覽候

送附人 齋藤

堂

同

文



昭和二年五月十八日 齋藤保氏

附入 齋藤 同 文



漢口最近の状況（昭和二年四月二十日）

（昭和二年五月二日）

漢口江漢高級中學校總務長 齋藤 重保氏報告

謹啓陳者其後、に於ける漢口の状況は少康を保ち居候、學校も異状なく校業を繼續致居候市況の状況は著しく平靜となりたるに因り各銀行會社は整理の目的を以て閉店致し中候、併し各商店會社等の業務を開始せしは其手持貨物の搬出と残存整理を目的となし居るものと、して復業の意味にては無之候當地在留邦人、意見として共產黨を中心としつゝ、ある現在の武漢政府が存立し總工會が存續する限り使用人の横暴跋扈を制する能はざるのみならず四月十八日公佈せられたる現金集中條令は商業貿易の基礎を破壊するものなるが故に現状を打破するに非ざれば武漢の地に於て商工業を経営する能はずと言ふに一致し居候、現金集中條令は別紙に如きものに有之候、右條令發佈せられて當地各銀行の現銀は悉皆國民政府に沒收せられ、次いで翌十九日錢幣の現銀も沒收せらるゝや市面に一大恐慌を來たし物價の昂騰を見るに至り中候、斯くて商業貿易は不振に陥り各種産業は覆滅に瀕しつつあるを以て失業者更に多きを如く總工會は之を救済するの途なきに至り中候に



161530

0108

付廿三、四日前後より、彼等の態度は遂に軟弱となり、洋人は彼等によつて工場は閉鎖せよとの宣傳標語が多数掲示せられ、これに及び、排外主義等の對外標語、ボスターが急に其影を没したる由に、却て國民政府が斯る對外的態度に出でたるは、西國の情勢頗る不利なるが故と存せられ、中候、其理由は、

(一) 河南に於ける戰況不利に、て奉軍は既に駐馬店に達し、國民革命軍は明港の南岸に退き、第四集團軍總司令唐生智親ら武漢に於ける殆んど全部の兵を率ゐて信陽に赴かざる可からざる情勢となりたること、

(二) 下流方面に在りては程潛軍並魯滌平軍共に非常なる損害を蒙り、漸次九江に向ひ退却しつつあること、

(三) 武漢政府、財政窮乏せられ、みなりず糧米及石炭缺乏して、今後一箇月を以て支ふる能はざるに、大京省益々増加して救済の途なきに到りたること、

(四) 南京事件發生以來、列國の態度硬化し來りたるをみなりず更に漢口事件の發生するありて列國は兵艦を漢口に集中しつつある

その情勢に鑑みたること、

田蒋介石が中央執行監察委員聯合會議を四月十八日南京に開催し、武漢政府其他の機關を彈圧し、南京に國民政府を開設し、中央黨部を組織し、武漢との關係を断絶し、列國亦之に同情しつつあること

等に見るものと一般に觀察致居候當地に於ける一般の豫想は、共產黨は河南に於ける敗戦によるか、或は内部の財政逼迫物資缺乏等に因りて数數月を出でざる中に崩潰するものと觀察致居候

目下武漢國民政府は全然共產黨によりて左右せられ居候が既に蔣介石及廣東の李濟等とは關係を断絶致居候故其勢力の及ぶ所は湖北湖南の兩省に御座候湖南省に於ては湖北より一歩先きに赤化の洗禮を受け居候ことなれば其勢頗る猛烈に、て總工會は資本家を逮捕殺戮して其財産を沒收し、農民協會は土豪劣紳を打倒して土地を沒收均分しつつある由に御座候湖南省。有名なる學者葉德輝は既に其毒中に斃れ、曾國藩の孫曾國鈞も識者せられたる由に御座候。入唐生曾父及韓廷蘭の兄弟親戚等も方針として逮捕され北

主及豪商等は陸續上海に難を避けつゝある由に御座候。湖北に在  
りては土地金貢已に任命せられ土豪、所有田地の没收及分配の準  
備をなすつゝある由に有之候。湖北に於ては武漢を中心として其  
附近各縣に於ける農民協會の暴行頗る甚だしき由なりが湖南省に  
於けるが如く土豪劣紳と直ちに人民裁判に附して殺戮するが如き  
程度までには至り居る由に有之候。併し資本家は勿論智識  
階級及商人等は續々逮捕され居る由に候。前の湖北政務廳長楊會  
康は逮捕せられ候。農民等々悉く如此甚だしきにより政府は之を  
取締らんとすも軍隊は戦線に送られ居るため十分の武力なく如  
何としなす難き情態なる由に御座候之が爲の農民等は米穀の搬出  
を拒み糧食は各都市に於て非常に缺乏を來しつゝあるも策を施す  
べきなき次第に御座候。殊に武漢に於て現金集中條令の發佈せら  
るゝや地方農民等は米穀と紙幣との交換を拒み現銀に非ざれば賣  
買せずと喝へ居る由に候。既に無智なる農民等に斯る悪思想が傳  
播して如上の如き暴行を敢てしつゝあるは尤も注意せらるべから  
ざることを存せられ水中候。勿論農民協會をたらしつゝあるもの

は然、耕の農民に非ずして不頼なる流氓等と土運の一種なる由に候  
かくて湖北湖南の両省は農民協會の名の下に匪徒が公然横行しつ  
つあるの現況に有之候

情勢如此日々險惡深刻となりつゝ、あるを以て在留邦人等は一般に  
強硬なる對支政策に出て、我政府は徹底的に共産黨を根絶し、匪徒  
を一掃するの方針に出でんことを熱望致居候。若し從來の如き不  
干渉主義一點張りにて共産黨を根絶し、潰滅するに非ざれば往  
在留邦人が五十餘年の努力によりて開拓したる經濟上の地盤と其  
華苦によりて築き上げたる資産とを掠奪せらるゝに止まらず悲い  
ては我國家に對して多大の禍害を及ぼすに至るべきことを主張

### 數居候

學校として、現在、處々然授業を純續致居候が、學行はるゝ群衆  
運動參加の爲の授業を休止せざるべからざること多きのみならず  
代表者、學生が代表として群衆運動に参加しつゝあり、今  
後は全體參加すべしと強迫せられ居候本校學生中には兩班一名、丁  
班二名の共産黨員有之此等の者が常に外部に本校學生を代表して



活動致居候が之を取締りこと不可罷なる情現に新座候故共産党が  
政權を掌握しつゝ、ある向は到底十分なる教育をなし難く候。通日  
未中央党部は童子軍及學生軍を募集致候が本校の共産党員學生等  
は之に應募したる由に新座候、武漢に於ける軍隊は殆んど河南の  
戦線に輸送せられて當地の警備は頗る薄弱となりたるたの學生軍  
を募集しつゝあること、存せられ小申候。  
先は右御報告迄如北に御座候。敬具

國民政府、發佈セシ現金集中條令

四月十七日

出師北伐ノ今日ニ方リテハ先ヅ政府ノ財政ヲ鞏固シ且機ニ乘ジ  
ヲ利ヲ源セントスルノ行徒カ我政府所在地ノ現金ヲ吸收シテ金融  
ヲ擾乱スルヲ嚴ニ防カザルベカラズ、故ニ特ニ現金集中條令ヲ頒  
布ス、今日以後租稅ヲ納付シ市面ニ流通スベキ紙幣ハ中央銀行紙  
幣及中國交通二銀行ノ鈔票タルベシ、現銀及銀洋ノ出口ハ之ヲ禁  
止ス、各銀行ハ平常ノ通り營業ヲナスモ現金ヲ以テ收付ヲナスヲ  
得ズ、我民衆ハ悉對ニ此條令ヲ遵守シテ營接シ造紙狼藉ヲナスベ  
カラズ、若シ中央銀行紙幣及中國交通二銀行ノ鈔票ヲ收付ヲ拒ミ  
或ハ我政府ノ經濟政策ヲ破壞シ造紙弊端ヲ生ゼシメテ金融ヲ擾乱  
セントスル者ハ查獲シテ法ニヨリ懲辦シ決レテ寬姑セズ云々、

國民政府集中現金條令

第一條

國民政府ハ金融ヲ維持シ現金ヲ集中センガタメ本條令ヲ  
施行ス、何人タルヲ問ハズ均シク遵守スベシ、

第二條

國稅ヲ納付シ市面ニ流通スベキ紙幣ハ中央銀行發スル所



161530

0114



、漢口通用紙幣及中國銀行交通銀行發スル紙、續々通用紙  
票・取ル

第二條 現幣及其他ノ商業銀行發賣ヲ所持スル者ハ中央、中國、交通

三銀行及本部局ニ對シ隨時中央、中國、交通、三銀行紙幣ト兌換  
ヲ請求スルコトヲ得

第四條 銀兩ヲ收付セラバレシテ紙幣ヲ用ユ、毎元法定七錢一分ト

ス、自由ニ増減スルヲ得ズ

第五條 財政部、認可ヲ經ル、非ザレバ絕對ニ現洋現銀ノ出口ヲ  
禁ズ

第六條 中央、中國、交通三銀行ノ紙幣ヲ收ムルヲ拒ミ或ハ現幣ヲ收

買シ、或ハ紙幣ノ價格ヲ抑壓シ、或ハ物品ノ市價ヲ抬高シ其他  
本條令ノ規定ニ違反スル行為ヲナスモノハ人民ノ告発ニヨ  
リ查明ノ上確証アルモノハ法律ヨリ嚴辦ス

第七條 本條令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

以上





海軍次官

軍令部次長

二遣機密第二番電

一、膠濟鐵道ニテハ昨ニ十二日來當方面ヘノ貨車

配給ヲ停止セリト 津浦線輸送力ヲ増加スル

為ナリト認ム

二、張ノ軍票一昨日迄四十八圓ナリシモ本日三十五圓

ニ下落ス 北軍不利ノ影響ト認ム

二五二三

第二遣外艦隊司令官







考量

あり

光進青島ニ迫り膠濟鉄道通断ノ  
恐アリ此ノ旬日ノ新況ニ依リテハ當地ニ  
相當大ナル衝激ヲ与フルコトナルヘシ  
孫伝芳ハ鎮江ノ何就欽ニ対シ積極的  
行動ニ出ツヘキヲ張ヨリ電命アリタルニ其  
行動ヲ採ラサルノミヤラス返電スラヤリス  
其ノ態度大ニ疑フヘキモノアリ  
四南方艦隊ノ来襲ニ備フル為舊灰料  
角砲台ノ修理ニ着手セリトハ真偽不明



161530

0118

電信寫

七三〇〇

暗

上海  
本省

五月廿五日後着



亞

土安

田中外務大臣

第七八一號

南京發本官宛電報

矢田總領事

貴官並谷課長一行南京視察ニ關シ南京政府ト打合ノ爲本二十二日  
蔣介石ヲ往訪シタルニ蔣及總參謀張群ハ時局ニ關シ大要次ノ如ク  
語レリ

(一) 津浦方面ノ戰事ハ諸事豫定ノ通進ミ目下徐州ヨリ蚌埠方面ニ進  
撃シツツアリ但シ山東軍敗退ノ際鐵道車輛ヲ持去リタルタメ前進  
ニ支障ヲ來セルモノ鮮カラス依テ滬寧線ヨリ車輛ヲ津浦線ニ移サ



161530

0119

ントシタルニ英國ヨリ右ハ其借款關係上容認シ難トテ責難ヲ  
停車場附近ニ碇泊セシメ右移動ヲ阻止シツツアルヲ以テ現ニ上海交  
渉員ヲシテ英國ニ交渉セシメツツアリ

(二) 南京下流ハ孫傳芳軍ト對峙中ナルカ孫ハ兵力一萬二、三千位ナ  
ルノミナラス内部ニ種々ノ事情モアレハ齒牙ニ掛クルニ足ラス而  
シテ之ニ對スル方策ハ趙倣來浦口ニ渡航セル一部隊ヲ以テ先ツ大  
合ヲ政略シ依テ以テ戰ハスシテ揚州方面ヲ略取スルニアル處右渡  
航部隊ハ一兩日中ニ前記六合ヲ占領スル手筈ナリ

(三) 武漢方面ニ於ケル夏斗寅楊森等カ最近武漢政府反對ヲ表明セル  
ハ皆當方ノ命令ニ依ルモノナリ

(四) 武漢派ハ北伐成功シ北京ニ於テ國民革命軍ト相會スル場合ニハ



國民會議ヲ開催シ南京國民政府ト提携スルノ機會アルヘシト思考  
シ居ルモノノ如キモ武漢派ニ於テ北京進出ノ如キハ到底出來得サ  
ルコトナルヘク又富方トシテハ目下最終北伐地點ヲ徐州トナシ居  
リ從テ武漢派ト北京ニ於テ相會スルカ如キハ考慮ノ要ナシ  
ト語リタル後吳佩孚馮玉祥ノ態度行動ニ付頗ル熱心ニ我ニ質問シ  
タルカ右談話中ヨリ得タル印象ハ蔣ハ河南方面ニ於ケル事態ノ進  
展ニ最意ヲ注キ居リ直魯軍並孫傳芳軍ニ對シテハ充分勝算アリト  
思惟シ居ルモノノ如シ

大臣其他適當轉電アリタシ（廿二日午後）

外務大臣、在支公使、青島、濟南、天津、奉天、漢口、廈門、汕  
頭、福州、廣東へ轉電セリ

電信寫

七三〇四 暗

廣東 本省

五月二十五日後着

田中外務大臣

森田總領事

第一二八

二十四日李濟深ノ本官ニ對シ爲セル時局談中御參考トモナルヘキ  
點ニ付

(一)奉天側カ江蘇、安徽問題ニテ我方ト妥協セサリシハ張宗昌カ張  
作霖ノ意思ニ反シテモ江蘇ニ對スル野心ヲ棄テ得サリシカ爲ナリ  
孫傳芳ハ既ニ戰意ナク聯合軍内部ノ不一致ハ充分察知セラルル處  
ナリ蔣介石カ愈々自身武漢討伐ニ着手スルハ恐ラク徐州占領ノ後  
ナルヘク徐州陷落ト共ニ北伐ノ師ハ一時中止スルモノニハ非サル

カト察セラル

(二) 武漢政府カ河南ニ於テ勦シ居ル兵數ハ約四萬ニシテ其ノ中二萬ハ曾テ自分ノ部下ナリシ張發奎ノ兵ナルカ其ノ戰鬥力ハ優秀ニシテ奉天側カ河南問題ヲ決セントセハ少クトモ右ニ當リ得ル兵數ヲ用ヒサル可ラス云々

在支公使、天津、漢口へ轉電セリ





三、海軍紀念日、觀兵式準備、爲昨  
日、四日ヨリ毎日式裝陸新隊ノ陸上  
教練ヲ行ヒツツアリ

四、南北兩軍ノ情勢ニ関シ何等ノ電報  
到達セス電報ノ一部分差押ハラレ居ルカ  
如シ

五、今朝來支那兵ノ移動頻繁ナリ午後  
五時約一々中隊青島奔井陘ニ向フ  
坊子ノ一部大港林橋ヨリ乘船準備中  
ニシテ行先地ハ海州ナラント云フ、眞偽  
明ナラス

和久

ニ五・二九

前カ

解

第二遣外艦隊司令官

海軍次官

軍令部次長

標密第一九番電

一息五日二十六日發、當地日本棉花報、

歸德、鞏縣、新野、鄭州ハ危險ニ瀕シ

公使ノ命ニ依リ同社長ハ天津ニ引上ニ

決定シタリ

ニ小野陸軍中佐及大阪毎日新聞特派員

徐州歸來談トシテ濟南總領事ノ

言ニ依リハ徐州ハ平穩ト成ル山東軍



161530

0126

意氣鎮沈新竟無シ

△最近日照方面ニ馬賊横行ス、昨日  
出港ノ華甲ハ陸兵ヲ石臼處ニ上陸ス  
右ハ鎮定ニ向ヒシモノ如シ



七三一三 暗

本省

五月廿六日前着

田中外務大臣

藤田總領事

第八八號（至急）

支那側當局ヨリ得タル確報ニ依レハ山東軍ハ二十四日再ヒ蚌埠ヲ  
占領シ尙河南ヨリ奉天軍ノ援軍至リ又孫傳芳軍モ南軍攻撃ノ行動  
ヲ開始シ南軍ヲ蚌埠以南ニ壓迫シタリトノコトナリ山東軍ハ既ニ  
一時混亂セル軍隊ヲ整理シ敗退ヲ挽回シタルモノト認メラレ當地  
ハ一般ニ平靜ニ歸シ一時三十錢盞ニ下レル軍票モ四十七錢ニ上リ  
支那市況モ何等平常ト異ル所ナシ在留民モ無事平靜ナリ  
在支公使、青島、天津、奉天、上海、張店、博山、芝罘へ轉電セリ



電信寫



七五一四

晴

青島  
本官

五月廿日後着



姜

亞

田中外大臣

矢田部總領事

第一〇〇號

日本郵政省出張員ヨリ三十日午前當地支店ニ送セル電報ニ依レ

ハ蚌埠陥落シ徐州危險トナレル趣ナリ

北京、濟南、天津、奉天、上海、漢口、芝罘、張店、坊子、博山

へ轉電セリ



161530

0129



129

# 電信寫

五月十八日

暗

濟南  
本省

五月三十日前着

藤田總領事

田中外務大臣

第九七號

徐州、蚌埠方面ノ戰況ニ關シテハ報道區々ニシテ真相ヲ捕捉スル  
ニ困難ナル處數日前徐州ニ赴キ昨二十八日歸來セル金參謀長カ往  
電第九六號ニ關シ面會ノ節本官ニ語リタル處ニ依レハ現在直魯聯  
軍ハ徐州ニ總司令部ヲ置キ督辦ハ同地ニアリ前方普離集、南宿州  
固鎮一帶ニ防禦工事ヲ施シテ陣形ヲ整ヘツツアリ南軍ハ淮河一帶  
ニアリ其ノ兵數密カナラサルモ蚌埠方面ニハ約一個師團在ルモノ  
ノ如シ孫傳芳軍ハ直魯軍應援ノ爲五個旅團ノ兵ヲ進メ現ニ清江浦

ヨリ涇陽迄進ミツツアリ張敬堯軍ハ一旦合肥ヲ占領シタルモ友軍  
トノ聯絡完全ナラサル爲再ヒ之ヲ拋棄シ現ニ蒙城方面ニアリ未タ  
徐州方面トノ聯絡十分ナラス數日中ニ南宿州方面ニ於テ兩軍ノ衝  
突アルヘキカ督辦ハ必勝ヲ期シ居レリ從來未タ兩軍正式ノ衝突ナ  
ク聯軍ハ内部不一致ノ爲常ニ敗退シ來レリ現在内部モ漸次整ヒツ  
ツアルヲ以テ今回ハ正式ニ戰鬪ヲ爲シ得ヘシ假リニ徐州ニ於テ敗  
ルルトスルモ更ニ豫皖一帶ノ省界ニ於テ防禦スヘシ奉天軍ノ南下  
援助ニ關シテ現ニ張督辦ト張作霖トノ間ニ協議中ナルカ督辦ハ已  
ムヲ得サル場合ノ外ハ出來得ル限り奉天軍ノ力ヲ借ラス直魯聯軍  
ヲ以テ防禦スル意圖ナリトノコトナリ因ニ往電第九五號津浦線ニ  
テ天津ヨリ南下セルモノハ參謀長ノ談ニ依レハ奉天軍ニ非スシテ

直隸軍ナリトノコトナリ尙ほ駐一營ニハ守備兵四千アリ更ニ三千  
増加スヘク外ニ巡警二千餘アリ地方防備ニハ十分ナリト語レリ  
北京、青島、天津、奉天、張店、博山、坊子、上海、漢口  
へ轉電セリ



# 電信寫



七六〇三

暗

青島  
本省



五月十一日午後



亞

田中外務大臣

矢田部總領事

第一一六號

廿一日海州ヨリ歸來セル者ノ談ニ依レハ白寶山ハ戰況不利ノ爲世  
日戰線ヨリ海州ニ引揚ケ目下新浦ニアリ又孫傳芳ノ部下モ續々海  
州ニ敗退ノ模様アル爲人心恟々タル有様ニシテ孫モ近々退却シ來  
ルヘシトノ説傳ハリ孫ハ既ニ逃亡ノ爲現銀二萬元ヲ日本汽船ニ托  
シ當地ニ送付セル形跡アリト云フ

在支公使、濟南、天津、上海、芝罘、漢口、奉天へ轉電セリ

(3)

極秘

電信課長

大臣

次官

官務

亞細亞

大務

歐米

通商

條約

情報

文化

人事

文書

會計

寫送先

(分類 4.4.1.5.1-2)

昭和

七七八一

暗

濟南 本省

二日後發 六月三日前着

亞

田中外務大臣

藤田總領事

第一一一號(極秘)

省長秘書張錫齡力極秘トシテ米内山ニ語レル處ニ依レハ督辦歸濟  
 後軍事會議ノ結果山東省內ヲ飽ク迄防備スルコトニ決シタル趣ニ  
 テ從テ徐州ハ或ハ既ニ戰ハスシテ退却シタルヤモ知レストノコト  
 ナリ但シ南軍ハ未タ急ニ北進ノ模様無ク河南方面ニ對シテモ濟寧  
 ニ相當ノ兵力ヲ置キテ防備スル手筈ナルヲ以テ南軍ノ進入ハ猶左  
 程懸念スルニ及ハサルモ唯山東省銀行紙幣ノ下落其他ノ原因ニ依  
 ル軍費ノ不足ハ重大問題ニシテ之カ爲給料不渡リノ不平アル軍隊

總陸海參軍

S

161530

0134

(3)

カ内部ヨリ擾亂セストモ限ラス督辦モ此ノ點ヲ憂慮シ今回不取敢  
給料一ヶ月分宛支給スルコトトシタルモ到底永續キ困難ナルヲ以  
テ現在極秘裡ニ不良軍隊（主トシテ武器ヲ有セサルモノ）ノ解散  
ヲ計劃シツツアリ督辦北京歸來後武力ヲ以テ之ヲ決行スル豫定ト  
ノコトナルカ其ノ節或ハ何等カ兵變勃發スル虞ナキニシモ非ス但  
シ右軍隊ハ之ヲ相當遠隔ノ地方ニ欺キ送り他ノ有力ナル軍隊ヲ以  
テ強制解散スル手筈ナルヲ以テ濟南ハ何事モ無カルヘシトハ思ハ  
ルルモ念ノ爲豫メ注意アリタシトノコトナリ右軍隊解散ノ件ハ督  
辦、省長ノ外其他親近者數名ヨリ以外之ニ與ラス絶對極秘裡ニ計  
劃ヲ進メツツアル趣ニ付御含メアリタク念ノ爲申添フ  
北京、青島へ轉電セリ

61845

昭和一

公第 八八 號

昭和 二年 六月 六 日

別紙添付

土

昭和二年六月十日

在 塔 平

事務所記金 福 士 堯

八八八八八八八八

昭和 二年 六月 六 日

公領 第 五 八 號

在 青 島 領 事 館 公 信 寫 送 付

件 名

一 支 那 文 武 官 署 家 族 避 難 三 人 件



16.530

0136



稿

昭和二年六月有

昭和二一年六月有

在坊子

外務省館生

福士亮行

在青島

總領事久田初傳吉殿

支那文武官等、家族避難者件

當地駐在膠濟鐵路警務部二總隊長

齊全如八萬一、場合ニ配慮シ、兩日中ニ

家族ヨリ青島ニ避難セシメントシ、其ノ準備

中ナリ膠濟鐵路局坊子警務部長鄧子厚

S

161530

0137



其ノ他ノ者モ潛カニ避難準備中ナルガ如シ  
海縣ニ於テ文武官其ノ他ノ者ニシテ既ニ家  
族ヲ主月島又天津ニ避難セシメタル者多敷  
アル様ニシテ海縣知事モ亦家族ヲ天津ニ  
避難セシメタルノユエニ同地方ノ支那人ハ  
數日未ダ歸ル様銀ノ様アリ  
右ノ如ク前考房報告申進ス

本信男送附先

外務大臣 濟南總領事 張在 傳山  
各出張所主任

電信課長

大臣

次官  
楊

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人事

文書

會計

寫送先

總務課

八〇一七

暗

北京  
本省



七日後發  
六月七日後着

亞

田中外務大臣

芳澤公使

第六四五號

張家口來電第一九號

確實ナル情報ニ依レハ張北縣北方三十支里ノ地點ニテ國民軍ノ逃  
亡兵ヲ含ム七百ノ土匪ハ六日以來官兵ト開戦中ニテ當地多倫庫倫  
間交通杜絶セリ過般來察哈爾ノ土匪討伐隊タル騎兵二十一旅ノ大  
部分ハ六七兩日ニ亘リ當地ヲ經由シテ南方ニ向ヒタリ  
右軍需品ハ汽車ニテ續々後送中



161530

0139



海軍次官  
軍令部長

二遺機密才三十六番電

一方永昌顧周永井談ニ依レバ

方軍配備石家莊留守司令部步兵

一連迫擊砲一團  
郊城一百六十七旅

十五軍 李家庄右一部 沂州司令

部及第百十一旅

方六月十三日  
沂州 = 在リ沂州、人口約

三万難攻、天嶮ナリト方軍精兵ト云

記錄件名

六  
一四  
五  
七八  
一  
一  
六  
八  
着

第二遣外艦隊司令官

三

ヒ難シ万一、場合其軍ヲ後退セシムル場  
合ニ於テハ途ヲ進又ハ高密ニ取ルベシト  
ハ方ハ以前張宗昌ノ參謀長副官ヲナシ  
タルコトアリ張ニ對シ絶對服從ヲ誓ヒ  
居リ祝ト、同普通ナリ。

二、六月十三日当地中口青年会ニ於テ支那拳  
生出兵排日演說会ヲ開催セリ、

昭和二年

第一課甲中

普通一三九號

昭和二年六月十四日

昭和二年六月八日

在杭州

領事代理 清野長太郎



外務大臣男爵田中義一殿

徐州占领祝賀提燈行列状況ニ関スル件

本月十二日午後二時ヨリ当地公衆運動場ニ於テ「山東出兵反対示威大會」並ニ是ニ兼ネテ「蔣總司令歡迎會」開催セラレタル次第ハ同日午後七時ヨリ徐州方面報ノ通りナルトコロニ當日夜間ハ豫定通り徐州方面祝賀提燈行列開催サレタリ午後七時ヨリ各處

分類 161530



愛都、團體、機關及其他ノ市民ハ集會場ニ集  
公衆運動場ニ續々トシテ集集シハ時迄ニ約五萬  
シヨリ隊伍ヲ整ヘ遊行ニ移レルガ縱幕ハ皆予ニ付  
自己ノ持テ来レル種々様々ノ提燈ヲ下ケ沿途革命  
歌ヲ合唱シ又「中國共產黨撲滅」「萬惡ノ蔣介石  
打倒」「一切ノ帝國主義打倒」等ノ標語ヲ呼ビツ  
繁華ナル街道ヲ經テ歩々爆竹ノ音ハ熾ニ轟々金  
城宛然火ノ海ト化セルノ盛觀ヲ呈セリ斯クシテ  
過ギ行列ハ固ヒ公衆運動場ニ歸リ茲ニテ解散ス  
石報告ス

不信寫送附先

北京、上海、福州、蘇州

通商局

通商局

第一課甲中山

公第六一六號

昭和二年六月二十一日

昭和二年六月二十七日 接受

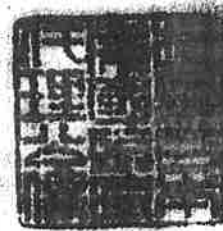
別紙添附

在支那

臨時代理公使

堀

義



土

外務大臣男爵 田 中 義 一 殿

京師總商會商團軍組織ニ關スル件

新聞報道ニ依レハ時局不安ノ際當地商民ハ其ノ利益保護ノ爲商團軍組織ヲ計畫シ六月十四日京師總商會副會長陳佩勳等警察廳ニ出張シ右計畫ニ對スル當局ノ諒解ヲ求メタル處警察廳側ニ於テモ頗ル賛成ノ意ヲ表シタルニ付越ヘテ同月十五日總商會ハ別添新聞切抜記載ノ如キ商團章程及規則ノ審議會ヲ開催シテ之カ討論ヲ行ヒタル事ナリ

分類 10.1.5.1-2  
612.1034

本件カ將來如何程迄具體化スルヤハ今日尙疑問ニ屬スルモ何等御参  
考迄右不取敢報告ス



寫

編者附

原書ハリニカク 449

七和伊其國外

有信ヲ及及後

(本部、部)

三三

16.11.5.1-2)

記三

八九三四 暗

上海 本省

廿六日 六月廿六日後

田中外務大臣

清水總領事代理

第八九九號

往電第八九九號ノ外二十五日袁良カ本官ニ語リタル「ニユウス」左

ノ通

(一) 國民政府ハ近ク日英米佛伊獨ノ五ヶ國ニ正式代表ヲ派遣スル筈ニ

テ其人選方ハ主トシテ黃郛ヲシテ之ニ當ラシムル事トナリ就中日

本ニ重キヲ置キ自分ヲ代表ニ任命セムトスル意嚮ナリ右正式代表

派遣ニ關シテハ既ニ之カ豫算モ編成済ナルカ日本ヘハ差當リ自分

ヲ派シ模様ニ依リ後ヨリ黃郛ヲモ出馬セシメ國民政府ト日本トノ

入和 國民政府ト日本トノ

外 務 省

461530

0147

特別密接ナル關係ヲ作ル事ニ努ムル旨本件ハ勿論蔣介石ノ意志ニテ蔣ノ外胡漢民、黃郛及余ノ三人以外ハ承知シ居ラス但シ自分ノ日本行ハ一ツノ條件（長江筋ノ經濟的恢復ニ關シ國民政府ニ於テ日本側ヲシテ満足セシメ得ル程度ノ手段方法ヲ講スル事）アリ之カ容レラレサル限り日本行ヲ引受ケ難ヤ旨蔣及黃ニ申入レ置キタリ以上ハ當分特ニ極秘ニ願度シ

(二) 徐州會議ニ赴キタル黃郛ハ二十三日歸滬シ一日ヨリ正式ニ上海市長ニ就任スル事ニ決定シテ目下之カ準備中ナリ又黃郛ハ市長就任後適當ノ機會ニ於テ口先許リ器用ナル現交渉員郭大禧ヲ他ニ轉任セシメ別ニ黃ノ信用スル適任者ヲ後任トスル意志アリ

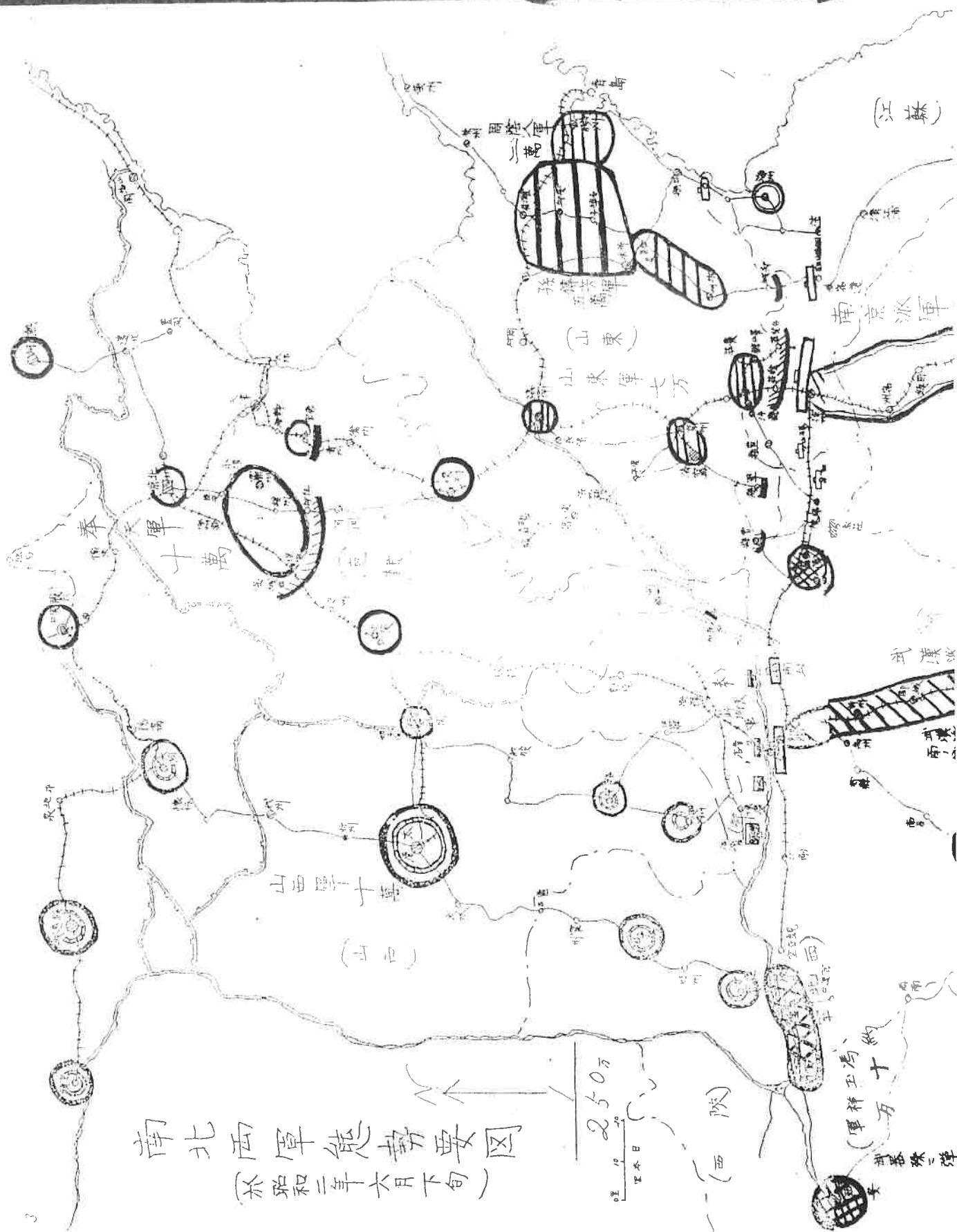
(三) 徐州ニ於テ蔣介石ト馮玉祥トノ間ニ攻守同盟トモ言フヘキ完全ナ

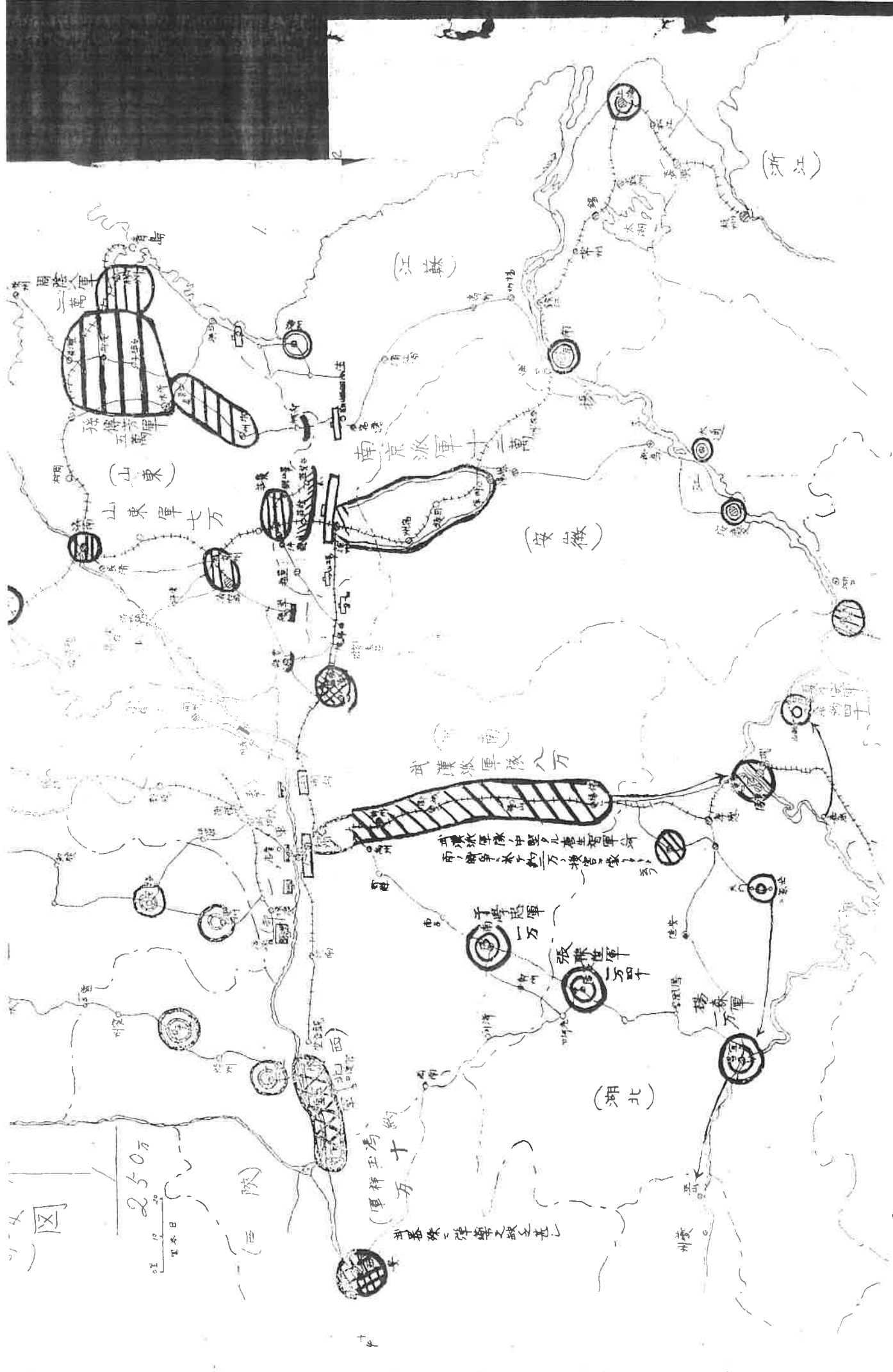


ル提携成リタルカ右兩者間ヲ斡旋セルハ黃郛ナリ元來馮及馮夫人ハ黃郛ニ師事シタル事アリ

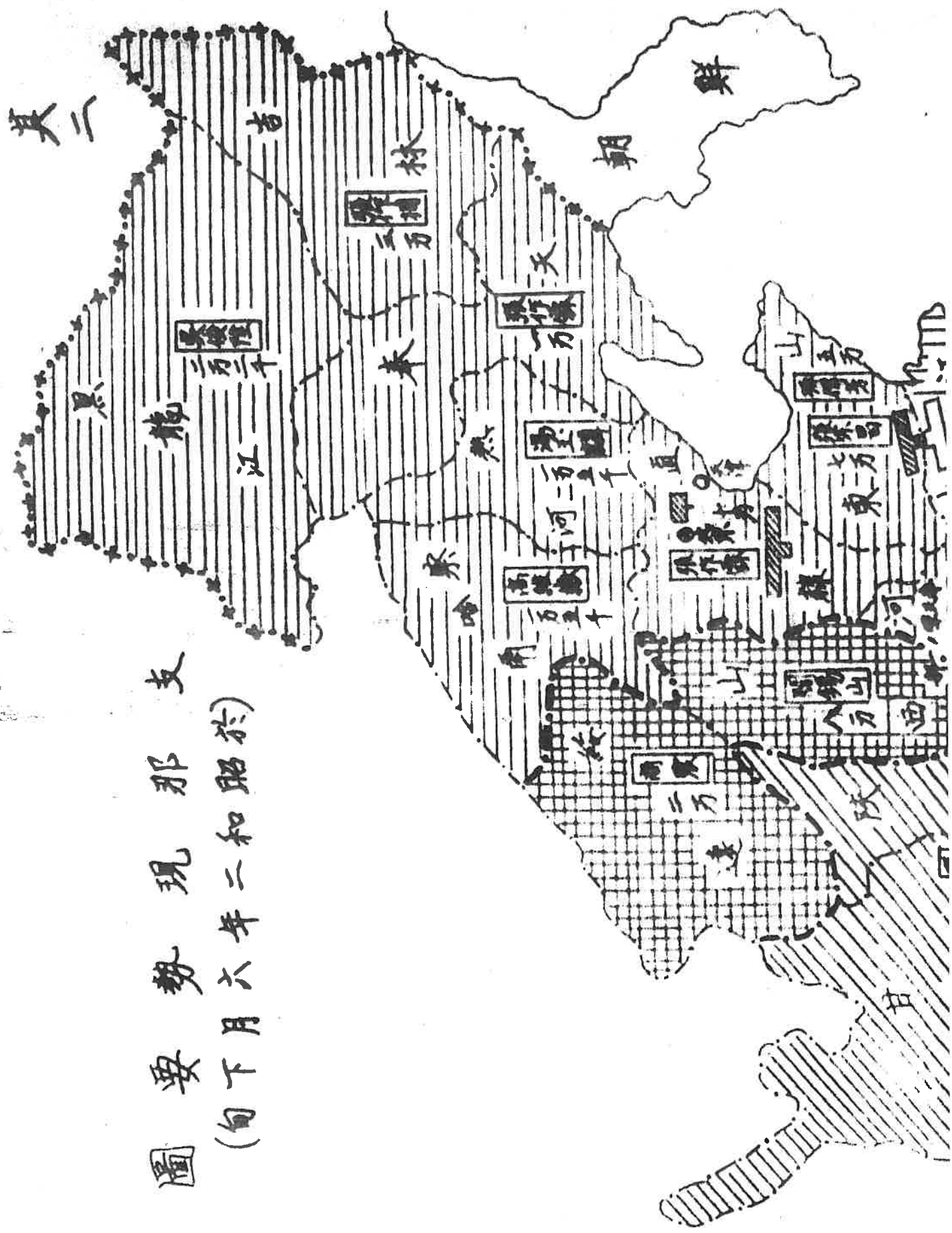
十三年馮ノ北京「ク」ノ如キ實ハ黃郛ト余（袁良）トノ考案ニシテ黃ヨリ馮ヲ動カシ決行セシメタルモノナリ又蔣ハ民國二年黃郛カ市長ノ時部下ノ團長タリシ關係モアリテ黃ハ多年馮及ヒ蔣ト密接ナル關係ヲ續ケ來レリ要スルニ黃ハ既ニ蔣、馮兩人ヲ動カス力ヲ有ス

(四) 日本人多數ハ馮ヲ誤解シ居ル傾アリ馮ハ決シテ赤化シ居ラサル三民主義者ニシテ武器彈藥ノ供給ヲ受クル方便上露國ニ接近シタルニ過キス彼カ最近發表セル武漢政府ニ對スル挑戰的意見ハ全ク彼ノ眞意ナリ










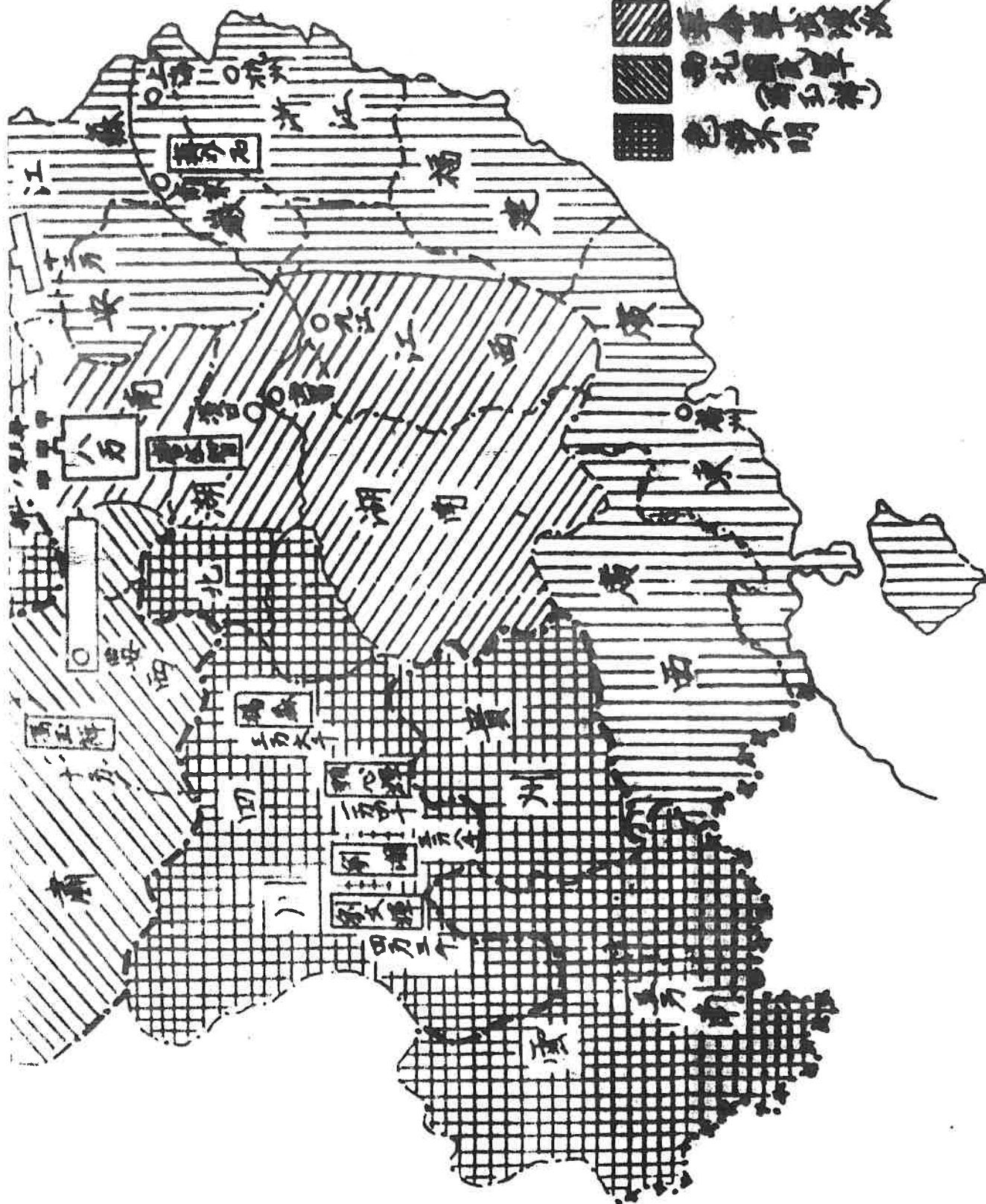
支那現勢要圖  
(昭和二年六月下旬)





# 備考

-  奉天系
-  革命軍團系派
-  革命軍派系派
-  西北軍系派  
(西北軍系派)
-  色彩不明





電信寫

(分類 46. 7. 5. 1-2)



九七五九

暗

本省 長沙

七月十三日前着

亞

田中外務大臣

第二八號

當地代理交渉員金壯存ノ内話ニ依レハ馮玉祥ハ徐州會議終了後六月二十八日頃當地滞在中ノ唐生智ニ電報ヲ寄セ武漢政府ヲ取消シ譚延闓何香凝宋子文等穩健分子ハ南京ニ去ラシメ汪精衛徐謙鄧演達等ノ共產派ヲ露國ニ「ボロヂン」ヲ國外ニ退去セシムル事トシ唐自ラ北伐ノ先鋒ニ立ツヘキ旨德通シ來リタルカ之ニ對シ唐生智ハ未タ何等回答ヲ發セサルモ茲ニ河南ノ戰鬪ニ於テ二萬人以上ノ死傷者ヲ出シ損害莫大ナリシヲ以テ目下湖南ニ於テ銳意新兵募集

糧谷領事

記帳名又那内紅關係一件  
別冊一冊氏軍一紙無誤

中ナルモ到底間ニ合ハサルヘク唐ハ順ル焦慮シ居レリ云々  
右聞込ミノ儘何等御參考迄

北京、上海、漢口、廣東へ轉電シ九江へ暗送セリ

編者附言

原書ハA.1.1.0.

2-4

濟南事件

對日排日及排貨關係

三卷リ

寫

(分類A6.1.5.1-2)

九八一二

斷

不省 山口

七月十三日發着

出中外務大臣

第三九三號ノ一

其後當地ノ一般狀況ハ

(一)山東出兵反對ニ付テハ新聞記事漸次露骨トナリ北京青島若ハ上海ノ情報及排日宣傳等ヲ類ニ記載シ居ルモ未タ真面目ノ反對ヲ顯メス但シ成行次第ニ依リテハ南京或ハ北京政府トノ對抗上武漢政府トシテモ現在ノ取締方針ヲ押領シ難キニ至ル處充分アリト見受ケラル

(二)東方會議ノ結果如何ハ當地要人ノ好惡ヲ居ル處ニシテ又果實ノ點

記錄件名 支那の亂關係一件

國民華北伐關係

田中總領事代理

外務省

161530

0170

明ニ拘ヲ又山梨大將ノ既支ヲ以テ南北妥協時機ノ密使ヲ密ナル者  
ト解釋スルモノ今尚相違アリ同大將カ上海迄ニテ引退ス事實ハ右  
曉諭ニ多大ノ困難ヲ興ヘ居ルカ如シ



電信寫

(分類 A 6. 1. 5. 1-2)



抄

一〇〇二〇

晴

上海  
本省

七月十八日 午後

十  
要

田中外務大臣

第九七二號

九江發本官宛電報第七〇號

大臣へ轉電アリタシ

第八三號

諸種ノ情報ヲ綜合スルニ武漢ノ第八第三五軍ハ續々東下シ武穴方  
面ヨリ安徽省内ニ前進シ又當地ニ來リシ張發奎ノ第四第一一軍ハ  
五千ニ達シ後續部隊ノ集結ヲ待チ長江右岸ヨリ陸路東下右四圍軍  
圍ニテ南京上海ヲ攻略シ武漢ノ活路ヲ閉ヤ窮乏セル財政ヲ復舊ス

記録件名 又抄内乱軍情一件  
別冊(國史手記文庫)

清水總領事代理



シメントノ計畫ナリト

武漢軍ノ勢力ニ歸シタル九江ハ農工運動又復擡頭シ各種工會ノ糾  
察隊ハ復歸シ彼等ニ武器ヲ與ヘ民衆運動ヲ盛ニシテ革命軍ノ聲援  
ヲ企圖シツツアリ市中ノ傳單ハ南京政府蔣介石反對ノ標語盛ナル  
モ排日的文句ハ殆トナク山東出兵ノ影響ハ今ニ具体化セス  
在支公使、上海へ轉電シ漢口、南京へ暗送セリ

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人文 社會 計畫

電信課

寫送先

(分類 40.1.5/1-2)

昭和

一一〇一三

略

濟南 本省

九日後發  
八月十日發着

田中外務大臣

第二二五號

取銷鈴ノ談ニ依レハ八月六日濟寧ニ至五聯軍騎兵約五百ヲ先驅ト

シテ襲來シ同地ハ一時混亂シタルモ既ニ

ニウセキ

魯軍第六十五師

及鐵甲車等ノ發援ノ下ニ之ヲ擊退シタリトノ事ナリ尙右ニ關シ本

九日支那官憲ヨリ發表セラレタル兗濟道尹ヨリノ公報ニ依レハ今

回來襲シタル國民軍ハ一師二旅及騎兵一族ト稱セラル地方土團ト

合シ計約三四千ニシテ師長鄒大昌之ヲ指揮シ鄒城方面ヨリ本國シ

タルモ(脫)三日兩夜包圍セラレタルモ第十七軍第二十四軍團

文部省印刷局 國民政府印刷局

勝兵旅團等ノ來援ニ俟リ八日之ヲ宛金ニ擧進シ日下進軍中ナリト  
ノコトナリ

在支公使、天津、奉天、青島、上海、芝罘、張店、博山へ轉電セ  
リ

類 46.1.5.1-2)

秋

一〇七一八

暗

本省

八月三日附署

土

田中外務大臣

第四四九號

後ヨリ

萬國ヨリノ情報ニ依レハ吳佩孚ハ七月十九日突然萬縣ノ下流

邊境ニ到着シ當分同地白帝城ニ滞在スルモノノ如ク楊森ハ四川

軍將領ニ對シ吳ハ既ニ下野セルモノナレハ之ヲ保護スト稱シ各万

國ノ諒解ヲ求メツツアルモ國民黨員ハ猛烈ナル反對ヲ爲シ居ルモ

ノノ如シ

尙吳カ下野セリト稱スルハ楊森ノ世間體ヲ作ル爲ノ宣傳ニシテ同

記念冊ニテ附内紅閣傳一件  
別冊(國民黨)此以附傳



人ハ依然政治的野心ヲ棄テス武漢ノ形勢如何ニ依リテハ四川軍  
將領ヲ操縱シ再起セムトスル意圖ヲ有スルモノト懸料セラル  
北京、上海へ轉電セリ



書山子  
華部有國定章  
社址  
支那郵政局

448

6.1.5.1-2

24

一一八五 略

上海 十三日前發  
本省 八月十三日後着

亞

田中外務大臣

矢田部總領事

第一〇七四號

十日伍外交部長ハ芳澤公使ニ對シ南京政府ハ駐日代表トシテ袁良ヲ  
近タ派遣スルニ決セリト語リ尙袁自身ヨリモ同様ノ話アリタル由ヘ  
右ニ關シテハ往電第八九九號参照）

尙十一日公使カ郭交渉員主催宴會ノ 郭ニ前線戰況ノ真相如何ヲ尋  
 木タルニ對シ郭ハ實ハ第一線ニ於ケル第十軍長王天培カ全ク戰意  
 ナキ爲メ十一日同軍長所屬軍隊ノ武裝ヲ解除シタル筈ニテ目下南軍  
 ハ埠ニ踏止リ居レリト答ヘタル懸ナリ

九江、廣東、天津、漢口、青島、濟南、北京（轉電）

五郡内乱于像一似  
同氏与世成者像

八

電信寫

(各 2 頁)



一一三四二 暗

漢口 本省

八月十七日附寄

至

田中外務大臣

第四八九號

田中總領事代理

國民政府ハ中央執行委員會ノ決議ヲ經テ北伐軍費調達ノ爲十五日  
湖北、湖南、江西三省富豪稅條令ヲ公布セリ

右ハ一問限リ徵收ノ財政稅ニシテ所有不動産五千乃至一萬元ニ對  
シ「パーセント」ヲ課シ三萬元迄ハ各々五千元、夫レ以上ハ千  
元毎二千分ノ一ヲ増加シ最高額五十萬元ニ至リ累進ヲ止ム地方各  
縣ハ之ニ振寃テラレシ最低稅額ヲ三箇月内ニ徵收ノ上省財政廳ヲ  
經テ中央政府ニ進金スル方法ニ依ルモノナリ

主計局記開傳再  
田中總領事代理

會文入文情修通歐  
計書報報報報報

亞細亞

大

大臣

電信探知

田中外務大臣

一一五六一

陸

上陸  
本營

廿一日後發  
八月廿二日後發

夏

英國總領事

廿日南京政府ハ南京駐在陸軍司令ニ任シタルカ白ハ即日統  
 布告ヲ發シ上海方面ニ對シテ海陸防備嚴重ニシテ一般商民何等  
 ノ難無キモ時節輕重言ハズテ探訪ヲ爲ス者アル場合ハ軍法ニ依リ  
 嚴罰ニキ旨合セテ布告シタルカ一方白ハ東亞總領事館ニ  
 廿日上海駐在地方ニ嚴令ヲ布キ夜間十二時ヨリ天明一  
 ノ交通遮斷ヲ行フ旨同日布告シタリ  
 在支公使ヘ轉電セリ



161530

0183





10-206.151-2

知名支那人入京一件

殷汝霖

内務大臣 鈴木喜三郎殿  
外務大臣 野村吉三郎殿  
指定廳 府縣長官 殿

亞細亞

昭和二年九月三日

宣統元年九月五日

觀  
見  
點  
監  
宮  
田  
先  
確

子所自託來信一件

1 續々受分文ル通ニ自動車ニテ四谷區坂所ニ至、妻ノ實  
家井上ノ方ニ赴キ、タリ以テ、  
右及申(通)報候